



「基礎看護教育に関する研究」 「助産師による授乳婦への食事指導に関する研究」

保健福祉学部 看護学科

助手 川野 綾 (かわの あや)

連絡先 県立広島大学 三原キャンパス 3408号室
Tel 0848-60-1180 Fax 0848-60-1180
E-mail kawano@pu-hiroshima.ac.jp

専門分野： 基礎看護学 生涯発達看護学

キーワード： 基礎看護技術 基礎看護教育
助産師 授乳婦 食事指導

● 主な取り組み・活動

* 新人看護師の離職率は7.5%と高い値を示しています。今日の医療水準や患者の期待水準は共に高まっており、それに対応し得る人材の育成が大学教育には必要であると考えています。しかし、基礎看護教育における現状は、学生が卒業時に1人でできるという看護技術は非常に少なく、看護基礎教育で習得する看護技術と臨床現場で求められるものとの乖離が指摘されています。そこで、卒業時までには、看護実践能力を向上させ患者の個性を踏まえたケアが提供できるようにするには、どのような教育体制でどのような基礎看護教育が必要かを検討していきたいと考えています。

* 産褥期の食事に関する保健指導は助産師が行うことが多く、その機会は妊娠中の母親学級時や、産後の退院指導時などに行われています。日本では母乳分泌を良好にする食品や禁忌食品などの習俗が今でも継承されており、そのような情報は「授乳婦の母親」「知人」や「産院」「助産師」などから得ているということが明らかとなっています。現在、助産師が食事指導を行う際どのような根拠を用いているか、また核となるものは何かを明らかにしています。食事指導を行う助産師が根拠を用い、どのような食事指導を行えば良いか明らかにすることと、食事指導の受け手である授乳婦が望ましい食事摂取を行えるよう支援していきたいと考えています。

● 今後の目標・抱負

* 今後はどのような教育体制や教育方法を用いることが看護実践能力を向上させるか検討を行っていききたいと考えています。

* 現在行っている「助産師が授乳婦に行う食事指導の根拠と核となるもの」の研究について一般性・信頼性を高め、広く助産師に知ってもらいたいと考えています。その指導を受ける母親の受益は大きいと考えています。また、今後は指導の受け手である授乳婦へ対象を広げ、助産師が行う食事指導が根拠に基づくものであるよう研究を進めていききたいと考えています。

● 地域・社会と連携して進めたい内容

* 基礎看護教育や助産師教育充実のため、病院や施設、行政などを始めとする様々な医療の提供場所と連携を図っていききたいと考えています。

* 助産師が行う食事指導に関する研究においては、明らかとなった研究結果を新人教育や助産師教育で活用していきたいと考えています。